

もうひとつの“まち”： SNSで生まれる 多文化共生のかたち

夏 晨陽

北海道大学 大学院環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース



未来社会のあるべきかたち

- ◆ちがいを知って、共に生きる
- ◆物も人もつながりを循環させる
- ◆現実とネットが調和し、誰にも居場所を

研究の対象 北海道華人之家

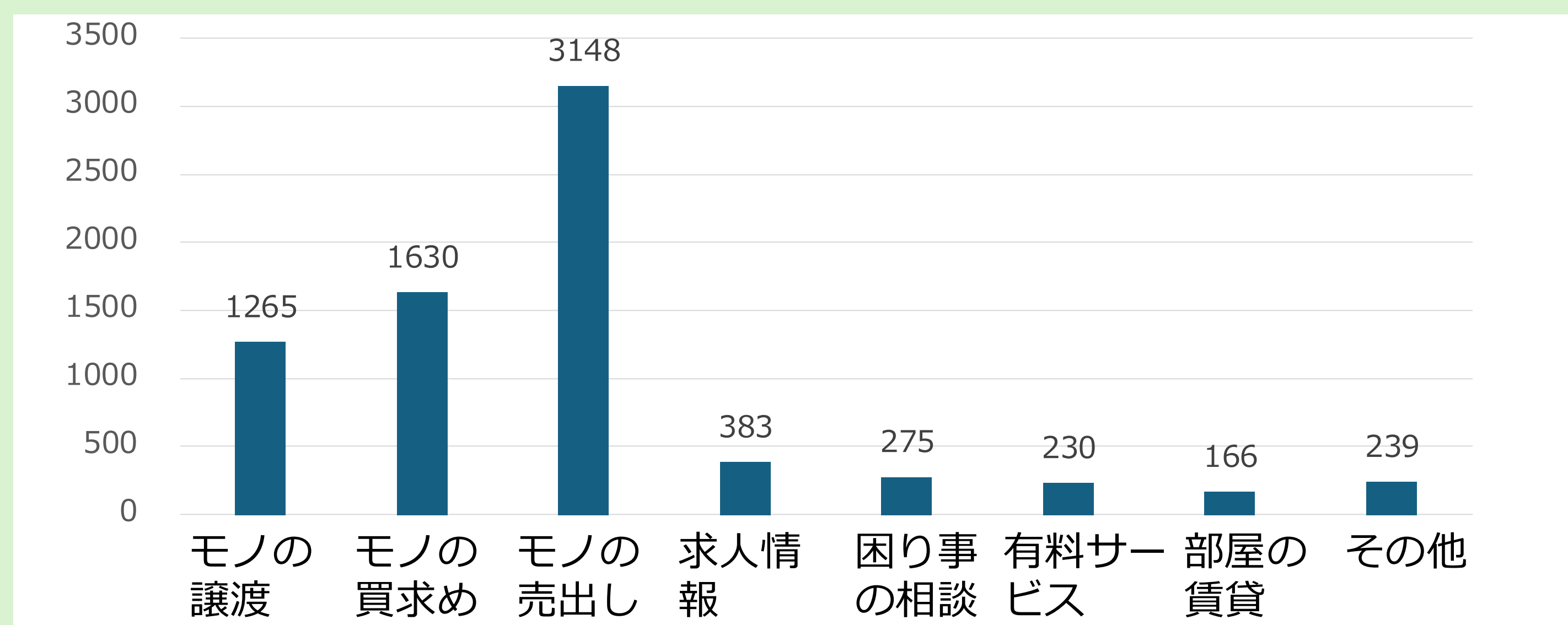
設立：WeChatのオープンチャット、2015年頃

目的：生活で困ったことなど互いに助け合う

参加者：知り合いを招待、現時点4,500人

北海道在住中国人の半数以上が参加する最大のオンライングループ

共生を支える仕組み



2021年8月1日-2023年1月31日における分類別での「北海道華人之家」の書き込み件数

従来の知見から「北海道華人之家」をどう見なすべきか？

➔ (リアルな)エスニック・コミュニティ(中野 & 今津, 1993)
周囲のコミュニティと自分達を分け隔てる文化的アイデンティティに関する認識を構成員が共有するコミュニティ

➔ オンライン・コミュニティ(Rheingold, 1993)
ネット上で十分な数の人々が豊かな人間性を持って、公の場で議論を続け、サイバースペース上で個人的な関係の網を形成したときに、ネット上に現れる社会的グループ

オンライン上のエスニック・コミュニティとして

- ◆非政府・非営利・非排他的・自発的・拡張的
- ◆国境を越えて広がるネットワーク
- ◆SNSを通じて、文化共有・相互支援・情報交換
- ◆ネットと地域をつなぐ共生の居場所

『Beyond-Group-Chats as a Platform for Online Ethnic Communities』として
Journal of Chinese Overseas に採択され、2026年5月に公開予定である